

目次

番号	分野	タイトル	ページ
1	ESS	Intersolar Europe 2025ー中国企業業績	P4
2		家庭用エネルギーストレージ---ベランダマイクログリッド	P5
3	電池	2030年リチウム電池回収量の見込み	P6
4		「全固体電池判定方法」団体標準 T/CSAE 434-2025)	P7
5		固体電池の応用(建築業界ロボット用)	P 8
6		BYD : 2、3輪車専用リン酸鉄リチウム電池を発売	P9
7		2025年4月電池企業搭載量TOP10	P10
8	充電器	新エネルギー車の充電と電気安全検査設備	P 11
9	マイクログリッド	南京市初の公共機関全シーンマイクログリッドプロジェクト	P12

Intersolar Europe 2025—中国企業業績

Intersolar Europe 2025 中国エネルギーストレージ企業契約状況

		企業	契約方	注文規模/GWh	製品タイプ	応用シーン	
DESAY CORNEX SVOLT WENERGY WENERGY 恩格新エネルギー SOFAR Hoenergy ZOE HANERSUN		德赛电池	ドイツDOS会社	4	エネルギーストレージセル、 プレハブキャビン ESS		
		楚能新能源	イギリスImmersa	2.5			
		蜂巢能源	Hopewind等	2		工商儲	工商エネルギーストレージ
		赢科数能		1.3			
		思格新能源	北ヨーロッパAprilice等	1.2	ESS	工商儲	工商エネルギーストレージ
		首航新能源	ヨーロッパ客先	1+	ESS	工商儲	工商エネルギーストレージ
		弘正储能	チエコDeldey	0.2		工商儲	工商エネルギーストレージ
		卓阳储能	ヨーロッパ客先		ESS		
		汉伏能源	ルーマニアELCO等	0.03	ESS	工商儲	工商エネルギーストレージ

家庭用エネルギーストレージ---ベランダマイクログリッド

● 第21回上海国際自動車工業展覧会では、StarChargeはベランダのマイクログリッド技術製品を発表し、伝統的な太陽光発電の設置制限を突破し、800Wフレキシブルアセンブリとマイクロインバーターを採用し、厚さが3mm、1枚の重量が3.3kgで、専門的な施工なしでガラスや壁面に吸着でき、プラグアンドプレイで180度の回転調節に対応し、太陽光資源を最大化して利用することで、年間発電量は家庭の基礎照明と小型電気機器の需要をカバーすることができる。製品はIP65防護認証を受けており、-20℃から60℃までの広温度域での運行は圧力がなく、極寒の雪域から湿熱沿岸まで安定して出力できる。



2030年リチウム電池回収量の見込み

●現在、中国に電池回収関連企業が17.7万社が存在し、6割以上の企業が3年以内に設立された。業界分布では、卸売業と小売業に帰属するのが最も多く、8.2万社があり、46.4%を占め、次は科学研究と技術サービス業に帰属する企業で、3.8万社があり、21.6%を占め、製造業に帰属する企業は1.7万社で、9.8%を占めている。先日、研究機関EVTank、伊維経済研究院が中国電池産業研究院と共同で発表した「中国リチウムイオン電池回収解体とリユース業界発展白書（2025年）」のデータによると、2024年の中国廃棄リチウムイオン電池の実際の回収量は65.4万トンで、前年同期比5.0%増にとどまり、原材料価格の影響を受けて、廃棄リチウムイオン電池回収市場全体の規模は前年同期比31.0%減少、86.6億元になった。将来を展望すると、EVTankは2030年までに、中国のリチウムイオン電池の回収量424.6万トンに達すると予想している。

また、生産能力建設から見ると、EVTankデータによると、2024年末まで、中国ホワイトリストリチウムイオン電池のリユースと回収分解生産能力は423.3万トン/年で、その中の**リユース生産能力は204.2万トン/年**、回収解体利用生産能力は219.1万トン/年で、業界全体の生産能力の伸び率はすでに2023年前より明らかに小さく、業界は理性的な発展の段階に入った。各企業の計画目標によると、2030年まで、中国のリチウムイオン電池の回収生産能力は1109.2万トン/年に達する。



「全固体電池判定方法」団体標準 T/CSAE 434-2025)

●2025年5月22日、中国自動車工学学会は正式に「全固体電池判定方法」(T/CSAE 434-2025)を発表し、この基準は初めて「全固体電池」の定義を明らかにし、イオン伝達が完全に固体電解質で実現され、混合固液電解質電池と厳格な技術境界を形成することを要求した。

この基準は中汽研新エネルギー自動車検査センター(天津)有限会社が牽引して50社ぐらいと共同で起草し、業界の全固体電池の定義のあいまいさ、液状物質含有量の測定方法の欠如などの問題を解決し、全固体電池技術のアップグレードと産業化応用に科学的根拠を提供し、団体基準による先行トライも後続の全固体電池国家基準制定に実践的な支持を提供することを目的としている。

新基準では、「全固体電池」は**イオン伝達を完全に固体電解質で実現しなければならず、混合固液電解質電池**と厳しい技術境界を形成することが求められている。この団体基準の核心的な研究点は、**無重力率に基づく液状物質の含有量**試験方法であり、即ち真空加熱によって無重力率を測定し、サンプルが**目視で液体がなく、無重力率が1%未満の場合**、全固体電池と判定する。複数回の検証試験で支持され、この方法は誤差率が低く、結果が安定しており、多くの主流技術路線に適用できる。

ICS 29.220
GCS K 62

团 体 标 准

T/CSAE 434—2025

全固态电池判定方法

Determination methods for all solid-state battery

2025-05-22 发布

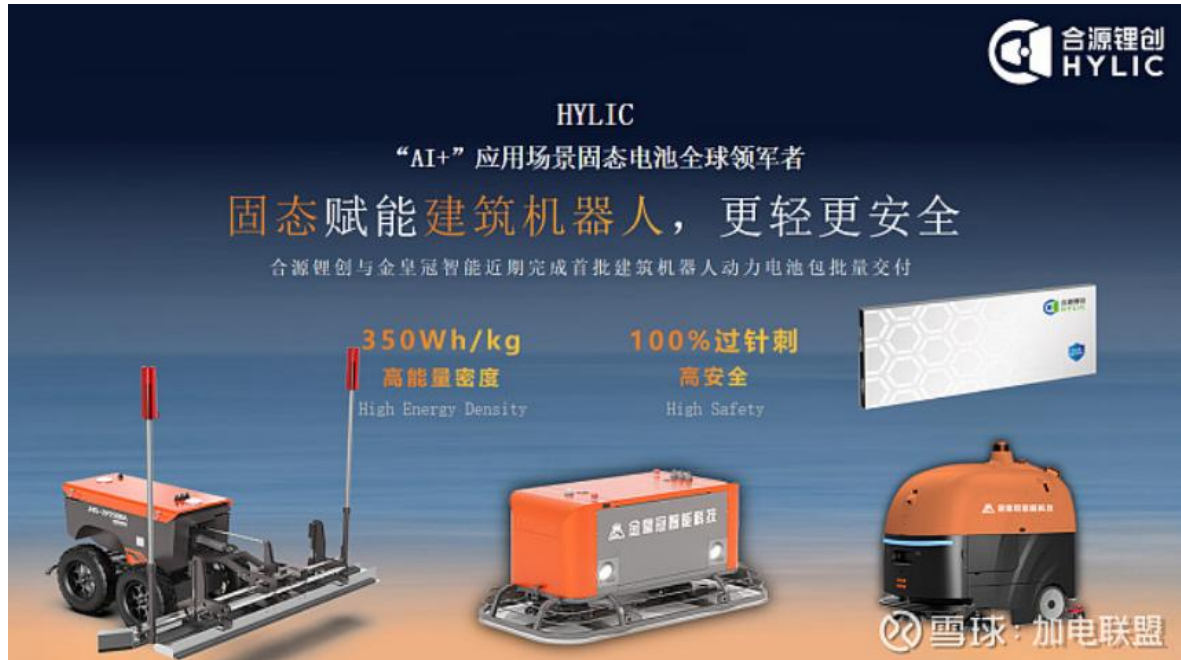
2025-05-22 实施

中国汽车工程学会 发布

固体電池の応用(建築業界ロボット用)

最近、合源锂創(HYLIC)は建設ロボット企業金王冠智能科技(蘇州)有限公司に初ロットの建設ロボット用固体動力電池パックを正式に納品した。これは固体電池が建設ロボット分野での初の量産化応用である。

350 Wh/kg、エネルギー密度が従来のリチウム電池の2倍、電池パックの重量が最大約40%減少。



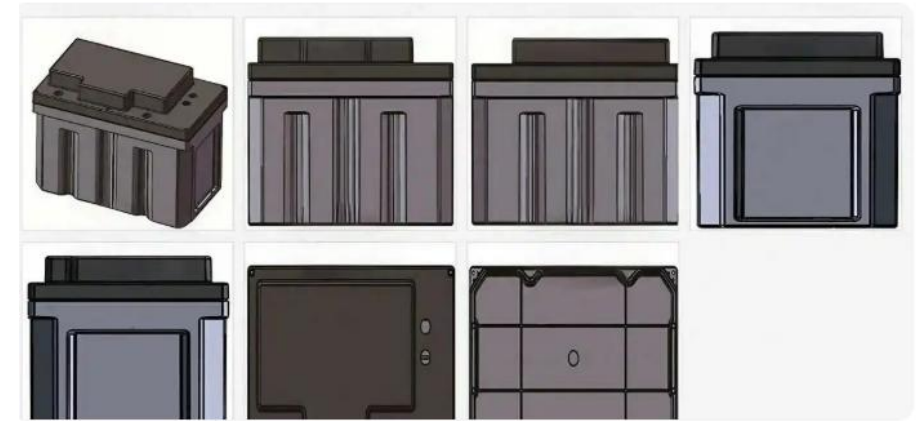
現在、この固体電池を搭載した建築用ロボットは、全国の十数カ所の工事現場で応用を展開している。例えば、上海のある軌道交通工事の土建プロジェクトでは、コンクリート平ら化用ロボットは0℃～60℃で安定して運転でき、連続6時間作業可能。従来の人工操作に比べて、このコンクリート平ら化ロボットは1台の1日作業効率が6倍を向上し、施工コストと人員労働強度を著しく低減した。

BYD : 2、3輪車専用リン酸鉄リチウム電池を発売

●BYDは2025年5月17日に電動二輪車、三輪電池の世界発売発表会を開催し、二輪車と三輪車用に特化したリン酸鉄リチウム電池を正式に発売した
製品マニュアルから見ると、今回発売した二輪車と三輪車専用のリン酸鉄リチウム電池は、全部で32種類があり、現在既に市場に出しているのは8、9種類ほどだ。

技術のハイライト : 今回発表したブレード電池は、エネルギー密度が180 Wh/kgで、鉛酸電池の3倍である、サイクル寿命は3000回を超え、1日1回の充放電で計算すると8年以上使用でき、寿命は鉛酸電池の5倍である。針刺は発火せず、高さ3メートルの所から落下しても損傷がなく、自動車レベル安全試験に合格した。1時間の急速充電（0～90%の電気量）を支持し、鉛酸電池の8時間の充電時間より8倍上昇する。

提携状況 : すでに新日、淮海（宗申）、立馬、台鈴、金彭などの2輪、3輪電気自動車ブランドと提携した。



2025年4月電池企業搭載量TOP10

排名	企业	装机量 (MWh)	份额	Top 1 OEM	Top 2 OEM	Top 3 OEM	Top 4 OEM	Top 5 OEM
1	宁德时代	22035	44.7%	小米汽车	吉利汽车	特斯拉中国	长安汽车	蔚来汽车
2	弗迪电池	11501	23.3%	比亚迪	小鹏汽车	腾势汽车	方程豹汽车	小米汽车
3	中创新航	3462	7.0%	小鹏汽车	零跑汽车	广汽丰田	广汽埃安	蔚来汽车
4	国轩高科	2959	6.0%	上汽通用五菱	零跑汽车	奇瑞汽车	吉利汽车	汉马科技
5	亿纬锂能	2004	4.1%	小鹏汽车	三一汽车	广汽埃安	福田汽车	远程新能源商用车
6	蜂巢能源	1546	3.1%	长城汽车	零跑汽车	吉利汽车	岚图汽车	光束汽车
7	正力新能	949	1.9%	零跑汽车	上汽通用五菱	广汽乘用车	上汽通用	一汽红旗
8	瑞浦兰钧	949	1.9%	上汽通用五菱	三一汽车	上汽乘用车	徐工汽车	东风柳汽
9	欣旺达	788	1.6%	理想汽车	东风乘用车	上汽大通	蔚来汽车	江铃新能源
10	极电新能源	714	1.4%	吉利汽车	智马达汽车			



KERUIは2025年4月の電池大手各社の搭載量を最新発表した。この中に、CATLは44.7%の市場シェアで優勝し、BYDのFARADAYは23.3%で2位に、この2つの電池メーカーは68%の市場を占めている。

CATLの顧客のうち、Xiaomi自動車は初めてトップになって、9.8%を占めた。現在、Xiaomi自動車の市場攻勢は依然としてプラスしている。2025年の年間納品目標はこれまでの30万台から35万台に引き上げられ、生産能力の配置は同期的にスピードアップした--二期工場は最速で7月に生産を開始し、年間生産能力は15万台を計画している。

新エネルギー車の充電と電気安全検査設備

●CIBF2025では、バッテリーのアフターマーケットのテスト分野に向けて、RePowerは新エネルギー自動車整備市場に対して新国家基準標（GBT44500-2024）の要求を満たす「新エネルギー車充電と電気安全検査設備」を発表し、先進的な検査技術と智能分析手段を通じてバッテリーの性能と安全性の全面的な評価を確保し、プラグアンドプレイ検査で新エネルギー自動車整備に正確なデータサポートを提供し、アフターマーケットサービスの智能化転換を推進した。

この設備はバッテリーの健康状態データを深く解析することにより、劣化/過充電/熱暴走などのバッテリーの危険性を正確に識別し、同時に可視化診断報告書を生成し、テストの全過程を自動化し、テスト報告書は正確で信頼できる。GB/T 27930新旧国家基準のすべての車種のテストと互換性があり、設備の利用率が高く、メンテナンスコストが低く、長期的な経済効果がある。



南京市初の公共機関全シーンマイクログリッドプロジェクト

● 最近、南京市初の公共機関の全シーンマイクログリッドプロジェクトが稼働し、実施場所は江寧開発区管理委員会である。管理委員会のスマートマイクログリッド建設は、エネルギー炭素プラットフォーム、太陽光発電、光蓄充ステーション、ビルの省エネ、制度建設など多方面で力を発揮する。

現在、ステーションにはV2G充放電一体充電器 4 台が設置され、Vehicle-to-Grid実用的な運営モデルの検証を展開するために使用されている。管理委員会ビルに足を踏み入ると、屋上のPV、廊下のフレキシブルPV、発電ガラスなどがオフィスビルの各空間に設置されている。その中で、ガラス回廊の屋根に革新的な発電ガラスを採用した、そこにストレージされたエネルギーは地下室の照明に使用される。

オフィスビルの新エネルギープロジェクトのカバー総面積は約3810平方メートルで、総設備容量は714 kWに達し、現在は順調に全容量をグリッドに接続しているという。

計画によると、将来的にはここで毎年87.52万kWhのグリーン電力を発電することができ、毎年標準炭を約267.12トン節約し、炭素排出量を約667.8トン削減することができる。

また、管理委員会はビルの省エネ制度を制定し、エレベーターの時間帯別動態管理、オフィスの照明最適化などを行い、ビルの省エネを普及させる。見えない「クラウド」では、管理委員会のエネルギー資源全体が江寧開発区のエネルギー炭素VPPに接続されている。

エネルギー炭素VPPは管理委員会園区の714 kW屋根の太陽光発電、1645 kW光蓄充一体化スーパー充電ステーション、1228 kWエアコン負荷、120 kW事務負荷、180 kW照明負荷及び園区の用水データのリアルタイムモニタリング、統計と分析、及び光、貯蔵、充などの資源の調整、そして柔軟にグリッドの相互作用調整に参加することができる。



ご清聴頂きまして有り難うございました!